

# かき消されてきた声

## 人種差別撤廃委員会に提出したダリット女性に関するレポート

タミルナドゥ女性フォーラム(TNWF)

IMADRのパートナー団体である、タミルナドゥ女性フォーラム(TNWF)は、インドのチェンナイに拠点をおき、女性の権利やジェンダーの公正のために活動しています。女性たちがよりリーダーシップを発揮できるようトレーニングを実施し、女性運動の強化さらには民衆運動を築き上げることを目的に1991年に立ち上げられました。下記は、同団体によってまとめられたダリット女性の状況に関するレポート(要約)です。スイスのジュネーブで開かれた人種差別撤廃委員会(第70会期、2007年2月19日~3月9日)では、インド政府報告書(第15-19回)の審査が行なわれました。これに際して、多くのNGOが同委員会に独自のレポートを提出し、TNWFはダリット女性への差別や人権状況に焦点をあてたレポートを提出しました<sup>(1)</sup>。8年も提出が遅れたインド政府報告書には、またもやダリットへの暴虐が記載されませんでした。人種差別撤廃委員会が2002年に採択した一般的勧告29において、「ダリットの苦境は、門地に基づく差別の禁止に明らかに該当する」と結論づけているにもかかわらず、インド政府はいまだにカースト差別は人種差別撤廃条約の適用範囲ではないと主張し続けています。この報告書の審査後、同委員会が結論づけたのは、「寺院、住宅、病院、教育、水、市場、その他の公共空間へのアクセスにおいて蔓延しているダリットへの差別は、市民権保護法(1955年)を厳格に施行することにより、阻止されなければならない」ということでした。驚くべき件数のダリット女性への性的暴力については、有効的に犯罪者を罰し、また被害者に配慮した規則の採用を検討することがインド政府に求められました<sup>(2)</sup>(編集部)。

### 背景

数あるヒンドゥー法典の1つであるマヌ法典は、人びとを階層化されたカースト制へと分断し、男女の不平等を助長している。そして法典は、ダリット女性を性的対象として扱うことを正当化し、幼児婚を助長させるだけでなく、女性に対する数々の暴力をも正当化してきた。つまり、ダリット女性を殺すことは、ブラーミン<sup>(3)</sup>にとっては動物を殺すに等しいほど軽視されている。

さらに、マヌ法典やほかの聖典に記された戒律は、ダリット女性が向上する手立てとなり得るはずの経済、政治、社会、教育の、そして個人としての道をすべて閉ざしている。これらの法律は、ヒンドゥー原理主義と結びつき、インド人口の多数を占める上位カーストの人びとに対してのみ有利にできている。

今日でも、私たちはダリット女性に対する苛酷な搾取を目にする。ダリット女性は、経済的、政治的、社会的、そして文化的権利を侵害する複合的な抑圧に直面している。貧しく、文字の読み書きができず、性的暴力のターゲットにされやすいダリット女性は、社会で最も権利を奪われてきた存在である。彼女たちは、支配カーストによるカースト暴力のみならず、国からの暴力も受けている。

### 生活状況と生計

ダリットの集落はたいてい、中心となる村

の周縁にある。彼/彼女らは小さな小屋に住み、多少ましな家に住む人たちでさえも、衛生、電気、安全な飲み水といった基本的な生活設備をもっていない。女性たちは、家事のために水汲みだけでなく、燃料や家畜の飼料を採集するために何キロも歩かなければならない。

女性たちは、建設現場で働き、重い建築資材を運ぶ。サンダルや他のいかなる保護用具もなしに、灼熱の太陽の下で日雇い労働者として何時間もレンガの釜で働いたりもする。手作業の尿尿処理労働は、インドで職業として続いており、その労働者の多くはダリット女性である。彼女たちは、そうした非人間的で下劣な仕事をさせられており、それゆえに差別や社会的排除が生じている。多くのダリット女性は、未組織の労働現場で働いてい



ダリット女性のレヌカさん。性暴力の被害と抵抗運動の困難を語る。

季節労働で低賃金のレンガづくり。不安定な生活は変わらないが、運動によって賃上げが実現。





芝居を通じてダリット女性への暴力を表現する女性活動家たち

るため、労働法が規定しているはずの保護や利益が一切ない。また、組合を立ち上げ、正当な賃金を要求することができず、州や国が規定している最低賃金さえ得ていない。ダリット女性は、手作業による、低賃金で、退屈で時間を要する仕事を引き受けている。彼女たちは、1日に1米ドル以下の賃金で働いている。

グローバル化は、ダリット女性にかなりの影響を及ぼしている。収穫や種まき作業の機械化といった新しい農業技術の導入により、女性たちは農業での伝統的労働を失ってしまった。食糧作物は、商品作物に取って代わられた。単純農業には、輸出のための大規模農業経営が導入された。このことで、ダリット女性は村の土地や共同資源を剥奪された。かつて、女性たちは葉枝、魚、貝などの食糧を得るためにそれらの土地から自由に採集していたが、もはや彼女たちは利用できなくなっている。より良い生計手段を求めて、農村部から都市部への大規模な移住が生じている。極度の貧しさのせいで、多くのダリット女性は家計を支えるために性労働へと追い立てられている。

#### 健康と教育

ダリット女性の健康状態は驚くべきものであり、高い母子の致死率によってもその状況は明らかである。標準以下の健康保健サービスと利用の拒否のために、ダリット女性の寿命は50歳と低い。貧困のため、ダリット女性は栄養失調で貧血症である。農業労働によって、彼女たちは背中の痛み、過剰な殺虫剤による肌の炎症、アレルギーに苦しんでいる。意識、医療ケアの欠如のために、多くの女性が性感染症や子宮がんを含む性と生殖に関する健康の問題で苦しんでいる。妊婦のダリット女性は、病院で差別的な扱いを受けて

おり、たとえば医者が彼女たちの出産を引き受けないという事例がある。

ダリット女性の多くが文字の読み書きができず、非識字者の数は76.24%にもなる。少女たちは、児童労働を強いられ、ダリットの家族のなかでは少女の中退率が増加している。ダリット女性は、教育の機会が限られているため、読み書きができない。なおかつ、き

ちんとした教育機関やデイケア設備がないので、子どもたちは家計を支えるために大人の仲間入りをせざるを得ない。ダリットの少女たちは、ほとんどがマッチ工場、花火産業のような危険な労働にかかわっている。

#### 政治力

ダリット女性は、意思決定からも排除されている。意思決定において力を行使する地位にいない。ダリット女性が立候補するところはどこでも、強力な反対、容赦のない攻撃にあう。たとえば、地方議会の議員として当選したり、留保制度<sup>(4)</sup>を通してパンチャヤット（インドの地方行政単位の1つ）の長の候補者になったりすることもある。しかし、その職務を果たそうとすると、抵抗や身体的暴力にあう。ダリット女性が村長に就いた場合、他カーストが許可しなければ椅子に座ることを許されない。彼女は名目上の村長となることを余儀なくされ、地方行政の職務が、実質的には上位カーストによって支配されるのである。

カースト、階級、ジェンダー差別により、ダリット女性は基本的人権、とりわけ尊厳、平等、発展を享受することを妨げられている。ダリット女性に対する暴力は、制度化された差別を維持するための手段であるとともに、とくに不可触の慣習やカースト規範が異議を唱えられたり、存在を脅かされたりしたときに現れる反発でもある。差別や暴力を見過ごすことは、現存するカーストやジェンダー差別を温存する手段として利用される。ダリット女性が人権を享受し、ミレニアム開発目標が達成される前に、差別、暴力、そしてそれらの看過は、止められなければならない。

(TAMIL NADU WOMEN'S FORUM)  
(翻訳:鈴木 真弥(IMADRボランティア))

- (1) 報告書全文（英語）は、IMADRホームページで入手可能(www.imadr.org)。
- (2) 人種差別委員会による最終見解は、IMADRホームページで紹介する予定。
- (3) カースト制度において最上層に位置する聖職者階級の人びと。
- (4) インドにおける積極的差別是正措置。